

令和4年度 基本施策評価シート

作成日 令和4年7月1日

基本施策	G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民が	芸術文化に親しみ、心豊かに生活している。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		230ページ	～ 232ページ
基本施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子
関係課名	学校教育課、生涯学習課		

基本施策の振返り

後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み(H28～R3年度)	
個別施策	G4-1	芸術文化に触れる機会を創出します	
ア 身近な場所での芸術文化に触れる機会の創出による、子どもの感性の育成	⇒	(ア) 学校・保育園などでのプロの演奏家による質の高い音楽に触れるアウトリーチコンサートの実施 (イ) アウトリーチコンサートの演奏家が一堂に会するガラコンサートの実施 (ウ) 住民と演奏家が協働で企画するミニコンサートの実施 (エ) 未就学児と保護者を対象にした親子向けコンサートの実施 (オ) 市民演奏家が出演するラウンジコンサートの実施、コロナ禍でも自宅等で鑑賞できるよう、令和3年度からコンサートの動画をホームページに掲載 (カ) プロの現代美術アーティストとの作品制作を体験できる長崎アートプロジェクトの実施 (キ) 芸術文化活動を行っている団体等の発表の場及びまちなかの賑わいを創出するNagasakiまちなか文化祭における令和2年度からの新たな市民美術家の作品を展示した「まちなか美術館」の実施 (ク) 長崎ブリックホール開館20周年記念事業の実施 (ケ) 「マダム・バタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れるためのシックフェスティバル及びコンサートの実施、子ども向け音楽劇を新たに制作し小学校で上演、コロナ禍においては、無観客コンサートの動画配信、視聴者参加型ワークショップの実施等オンラインを活用した事業の実施 (コ) コロナ禍の中「新しい生活様式」を取り入れた方法でコンサート等を行う長崎文化時間の創出事業の実施 (サ) チトセピアホール開館30周年記念コンサート及び親子向けコンサートの実施	
イ 市民の芸術文化活動及び鑑賞の拠点である文化施設の機能の確保と環境の充足	⇒	(ア) ブリックホール・チトセピアホールの指定管理者との連携による管理運営 (イ) ブリックホール・チトセピアホールの施設設備の更新 (ウ) ブリックホール大ホール予約の市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度の拡大継続 (エ) ブリックホールへの無線LAN(Wi-Fi)の整備 (オ) ブリックホール、チトセピアホール、遠藤周作文学館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインの策定及びガイドラインに則った安全安心な施設管理運営の実施 (カ) 遠藤周作の未発表小説及び未発表戯曲の発見及び作品の展示 (キ) 遠藤周作文学講座や企画展、映画上映会の実施及び思索空間「アンシャンテ」の整備、展示リニューアルの実施 (ク) 新たな文化施設の整備に向けた検討	

個別施策	G4-2	市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります
ア 芸術文化の担い手の若返り		<p>(ア)夏休み期間中に子どもたちが舞台芸術を体験することができることも演劇体験教室の実施</p> <p>(イ)市内の小中学校等での演劇アウトリーチの実施</p> <p>(ウ)子どもや親子、一般向けのダンスワークショップの実施</p> <p>(エ)子どもたちが日本の伝統文化を体験できる伝統文化体験教室の実施</p> <p>(オ)市民と一緒に舞台をつくる市民参加舞台公演の実施</p> <p>(カ)市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場としての市民演劇祭、市民音楽祭、市民美術展、市民いけばな展、市民三曲演奏会の実施</p> <p>(キ)市民文化団体の自主的な芸術文化活動を支援する芸術文化活動助成金の交付</p> <p>(ク)芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」の開設</p> <p>(ケ)子どもたちの芸術文化活動を支援する芸術文化振興奨励金の創設</p> <p>(コ)ブリックホールサポーターなど市民参画の取組み</p>



成果及び効果(H28～R3年度)		
個別施策	G4-1	芸術文化に触れる機会を創出します
<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主文化事業については、平成30年度に、長崎ブリックホール開館20周年記念事業を実施し、3,828人が出演者、鑑賞者として参加した。市民文化活動を行っている団体等が力を合わせて新たな取組みを行ったことにより、市民文化団体同士のつながりが深まった。また、若い世代による企画への発案や積極的な活動が見られ、将来を担う人材の活躍の場づくりにつながった。 ・令和2年度以降は、新型コロナウイルスの影響により芸術文化活動が制限されるとともに、発表会等の中止や延期により芸術文化に触れる機会が激減したことから、「新しい生活様式」を取り入れた「長崎文化時間の創出事業」を実施し、新型コロナウイルス感染症に対応した取組みを行うことで、市内の劇団や市民演奏家等の出演機会や市民が芸術文化を体験したり鑑賞する機会を提供するとともに、「新しい生活様式」を取り入れた芸術文化活動について、市民文化団体とのノウハウの共有や市民への定着が一定図られた。 		
<p>②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マダムバタフライフェスティバル」のメインイベントであるコンサートは、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度から3年連続して中止したが、令和2年度及び3年度は、オンラインを活用し、親子で楽しむことができるコンサートやオペラの解説動画、視聴者参加型ワークショップ動画を作成しYouTubeで配信したことにより、自宅等で鑑賞できる機会を創出するとともに、オンラインを活用した芸術文化活動のノウハウを蓄積し、新たな事業展開が可能となった。 		
<p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリックホール及びチトセピアホールの管理運営については、指定管理者と連携して新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、老朽化した設備等の更新を行ったことで、安全安心に利用してもらうことができた。 ・ブリックホール大ホールの予約における市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度拡大を継続することで、利用しやすい環境を一定整えることができた。 		
<p>④遠藤周作文学館の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠藤周作文学館の入場者数は、令和元年度以降は目標値を達成することができなかったが、平成30年度に軽喫茶スペースを改修し、遠藤文学の余韻を楽しむとともに雄大な海と空を眺めながら静かにゆっくりと過ごすことができる場所として、思索空間「アンシャンテ」を整備することで、新たな魅力が生まれた。また、平成30年度及び令和2年度に展示リニューアルを実施し、多くの方が遠藤文学に親しむことができた。 ・資料整理を進める中、令和2年度に未発表小説を、令和3年度に未発表戯曲3作品を発見したことにより全国的な注目を集め、雑誌取材や報道対応により、より広く文学館及び遠藤文学の新たな魅力を発信することができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、安全安心に観覧してもらうことができた。 		
<p>⑤新たな文化施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな文化施設の整備については、令和元年度に新たな文化施設のビジョンや求められる機能、規模などの基本的な考え方を示す基本構想を策定し、令和3年度からは、基本計画策定に着手するなど整備に向けた検討が進捗した。 		

個別施策	G4-2	市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります
<p>①市民参加・普及啓発型事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民参加舞台の公演については、公募で集まった市民を対象に平成30年度に戯曲講座、令和元年度に音楽講座を実施し、講座で制作した戯曲や音楽をもとに舞台作品を作り、令和2年度に公募で集まった市民が演じる舞台公演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により舞台公演を延期し、令和3年度に実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、稽古をオンラインに変更する等の対応をしながら稽古を行い、公演には1,026人が入場し、多くの市民に芸術文化に触れ楽しむ機会を提供するとともに、「新しい生活様式」での芸術文化活動について、出演者、指導者、スタッフとのノウハウの共有や市民への定着が一定図られた。 ・演出、演出助手、振付、歌唱指導に地元長崎を拠点に活動している方を起用することで、舞台芸術に関わる人材の育成につなげることができた。 		
<p>②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化活動助成金については、音楽、演劇、舞踊、美術など様々な分野の活動を行う市民文化団体に対し、平成28年度から6年間で53件助成した。直接的な支援を行うことにより芸術文化活動の活性化につながった。 ・令和2年度に芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」を開設し、市や市民文化団体等の芸術文化に関する情報を発信するほか、市民文化団体等が自ら情報を発信できる掲示板の機能を設けることでイベントの周知やメンバー募集等に活用できるようにするとともに、市主催のイベントへの申し込みについて、スマホで気軽に申し込むことができる仕組みを導入し、情報発信の強化及び利便性の向上を図った。 		

問題点とその要因(H28～R3年度)		
個別施策	G4-1	芸術文化に触れる機会を創出します
<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出 ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、事業やイベントの開催ができない又は開催した場合も、参加人数の縮小等を行う必要がある。また、芸術文化の魅力を生で体感できる機会が減少した。さらに、発表会等のほとんどが、延期や中止せざるを得ない状況となり、中止等に伴う経済面での影響が活動再開の支障となっている。 		
<p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリックホールの稼働率が高く、市民の利用希望が多い土日祝日を対象とする大ホールの市民優先日を設定しているが、予約が取りづらい状況にある。これは、公会堂の廃止に伴い、文化施設での芸術文化活動の発表の場が不足している状況にあること、ブリックホール大ホールの改修工事の実施に伴い、平成30年度から大ホールの休止期間が長くなっていること、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホールの休館やイベントの中止等に伴う振替開催等が集中していることが要因である。 		
個別施策	G4-2	市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります
<p>①市民参加・普及啓発型事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを対象にした体験教室やワークショップにおいて、内容によって申込者が偏っている傾向にあり、体験内容の魅力の周知が十分でないことが要因として考えられる。 ・20～30代の若者世代の参加者が少なく、開催日や時間帯について、若者世代が参加しやすい日時にするなどの工夫が不足していることが要因として考えられる。 		
<p>②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民文化団体の登録数及び所属者数について、目標を達成できておらず、市民の芸術文化活動に対する興味・関心を高める必要があるとともに、市民文化団体制度のメリット等の周知が不足していることが要因であると考えられる。 ・芸術文化活動を行うにあたり、新型コロナウイルスの影響により活動が制限されたり、活動自体を休止する市民文化団体もあり、芸術文化の振興に多大な影響が生じている。 		
<p>④文化事業を支援する人材育成の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリックホールサポーターの登録者数が減少傾向にあり、サポーターの活動内容が固定化し魅力が感じにくいこと、制度について周知が不足していることが要因であると考えられる。 ・高齢化により、担い手としての活動ができなくなる人が増える一方、人口減少により活動人口が少なくなる中、新たな担い手の確保が難しくなっており、芸術文化の担い手が不足している。 		

今後の取組方針

【】内は五次総合計画における個別施策

G4-1

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出 → 【G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します】
- ・子どもから大人まで幅広い市民が鑑賞・参加し、楽しむことができる自主文化事業の企画・立案を行う。
 - ・引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応した新たな手法も取り入れながら、事業を企画・立案するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で始まった新たな動きを活かした事業展開も行っていく。一方で、芸術文化は生で体験することでしか得られないものも多いことから、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、本来の姿での事業を再開していく。また、子どもたちにとっても芸術文化活動が制限されることが多かったため、子どものときにしか体験できない未就学児を含む子どもを対象とした事業に積極的に取り組み、子どもの頃から芸術文化に親しみ、楽しむ機会を創出する。
- ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出 → 【G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します】
- ・長崎が舞台のオペラ「マダムバタフライ」をテーマとした「マダムバタフライフェスティバル」については、各団体と連携し、内容や広報周知についても工夫を加え、事業の充実を図る。また、引き続き、プッチーニの生誕の地であるイタリヤ・ルッカ市との交流を深め、ゲストを招いてコンサートを実施するほか、子どもや親子を対象にした音楽劇を実施するなど、幅広い市民が楽しめる場として充実させる。
 - ・国民文化祭が令和7年度に本県で開催されることから、国民文化祭の開催に向けて、市民文化団体等と協力しながら準備を進め、国民文化祭後も活性化した状態が続くよう取り組んでいく。
- ④遠藤周作文学館の管理運営 → 【G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します】
- ・遠藤周作文学館については、未発表小説や未発表戯曲の発見により全国的な注目を集めたところであり、令和5年3月には遠藤周作生誕100年の大切な節目を迎えることから、この機会を活かした事業展開を行うことで入館者の増加を図る。
- ⑤新たな文化施設の整備 → 【G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します】
- ・新たな文化施設の整備に向け、建設予定地である現市庁舎本館敷地の測量及び土質調査を行うとともに、基本計画策定完了後、管理運営計画の策定等に着手し、引き続き検討を進める。

G4-2

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開 → 【G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります】
- ・子どもから大人まで幅広い市民が芸術文化に触れる機会を提供することで、自主的な活動へのきっかけにつながるよう体験教室やワークショップ等を継続して実施する。
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み → 【G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります】
- ・芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」において、市主催事業等の積極的な情報発信のほか、市民文化団体の紹介やイベントの周知など市民文化団体が自ら情報発信できるツールとしての活用を促進するとともに、市民文化団体への登録メリット等も改めて周知することで、芸術文化活動に関わる市民や楽しむ市民を増やす。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市民文化団体等の活動を支援するため、令和4年度に補助制度を創設し、芸術文化活動の再開を促進する。
- ④文化事業を支援する人材育成の取組み → 【G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります】
- ・ボランティアスタッフなど市民が参画できる事業を実施するとともに、ボランティアスタッフの活動の魅力を高め、登録者の増加に努める。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
芸術文化を鑑賞する 市民の割合	45.6% (26年度)	↑ 目標値	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%
		実績値	53.3%	54.2%	53.7%	51.2%	42.5%	41.6%
		達成率	107.7%	109.5%	108.5%	103.4%	85.9%	84.0%
芸術文化活動を行う 市民の割合	15.1% (26年度)	↑ 目標値	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%
		実績値	14.4%	19.8%	18.3%	18.6%	19.5%	18.7%
		達成率	76.2%	104.8%	96.8%	98.4%	103.2%	98.9%

基本施策の評価

Dd 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「D」とする。
- ・個別施策の成果指標すべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「d」とする。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Dd」については、所管評価のとおり。

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-1	芸術文化に触れる機会を創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図		
	市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。		
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子	

令和3年度の取組概要

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
- ・芸術文化活動の再開を目指し、新たな生活様式を取り入れた「長崎文化時間の創出事業」を実施し、朗読劇やコンサートなどを開催した。(25回、722人)
 - ・学校でプロの演奏家による質の高い音楽に触れるアウトリーチコンサート(8回)を実施した。
 - ・長崎アートプロジェクトにおいては、市民等が制作したアート作品の展覧会を実施する予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。新たな取組みとして絵画の歴史や鑑賞ポイントなどを学ぶアート研修会を行った。
 - ・「Nagasakiまちなか文化祭」のうち、音楽・舞踊の市民ステージ及び美術作品の展示は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、まちなか劇場については、初の取組みとして無観客でライブ配信するとともに編集動画をYouTubeで配信した。
- ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出
- ・「マダムバタフライフェスティバル」については、オペラの仕組みや楽しみ方についてコンサートに出演予定だった演奏者の演奏も交え、子どもも楽しめる解説動画を新たに制作しYouTubeで配信した。
- ③市の文化施設の管理運営
- ・ブリックホール、チトセピアホールにおいては、引き続き指定管理者との連携のもと、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、安全安心な管理運営を行った。
 - ・ブリックホール大ホール吊物機構やチトセピアホールの音響設備の更新、ブリックホール大ホール舞台照明及びチトセピアホール客席照明のLED化など、施設の老朽化に伴う設備更新を行った。
 - ・ブリックホールに無線LAN(Wi-Fi)を整備し、オンライン配信などができる環境を整えた。
 - ・公会堂の廃止に伴い、ブリックホール大ホール予約の市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度の拡大を継続して実施した。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
- ・遠藤周作没後25年を記念した企画展示のリニューアルを行った。また、未発表戯曲3作品の発見を発表した。
 - ・遠藤周作文学館の思索空間アンシャンテにおいて、文学講座(2回)、レコード鑑賞会(1回)を実施した。
- ⑤新たな文化施設の整備
- ・令和4年度の基本計画策定を目指し、審議会や市民ワークショップを開催し、意見聴取を行った。

評価(成果)

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
- ・「長崎文化時間の創出事業」を実施し、新型コロナウイルス感染症に対応した取組みを行うことで、市内の劇団や市民演奏家等の出演機会や市民が芸術文化を体験したり鑑賞する機会を提供するとともに、「新しい生活様式」を取り入れた芸術文化活動について、市民文化団体とのノウハウの共有や市民への定着が一定図られた。
- ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出
- ・「マダムバタフライフェスティバル」のメインイベントであるコンサートは、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度から3年連続して中止したが、令和3年度は令和2年度に引き続きオンラインを活用し、オペラ歌手の演奏を交え、子どもも楽しめるオペラの解説動画を作成しYouTubeで配信したことにより、自宅等で鑑賞できる機会を創出するとともに、オンラインを活用した芸術文化活動のノウハウを蓄積し、新たな事業展開が可能となった。
- ③市の文化施設の管理運営
- ・ブリックホール、チトセピアホールでは、指定管理者と連携して新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、老朽化した設備等の更新を行ったことで、安全安心に利用してもらうことができた。
 - ・ブリックホール大ホールの予約における市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度拡大を継続することで、利用しやすい環境を一定整えることができた。
 - ・ブリックホール大ホール舞台照明及びチトセピアホール客席照明をLED化したことで、省エネルギー化とランニングコスト縮減につながった。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
- ・文学講座等の事業を実施することにより、遠藤文学及び遠藤周作文学館の周知が図られた。
 - ・未発表戯曲3作品の発見により、全国的な注目を集め、新たな遠藤文学の魅力の発信ができた。

評価(問題点とその要因)

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
- ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントを中止又は無観客で動画配信に変更して実施することが多く、自主文化事業の参加・入場者数が減少している。
 - ・「新しい生活様式」でイベントや芸術文化活動を実施するためには、参加人数を縮小したり、オンライン等で開催する必要があるため、芸術文化の魅力を生で体感できる機会が減少している。
- ③市の文化施設の管理運営
 - ・公会堂の廃止に伴い、ブリックホール大ホールについて市民優先利用日を設定し、市民の芸術文化活動の発表の場の確保に努めているが、ホールや練習室の利用が多く、予約が取りづらい状況にある。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出自粛やイベントの中止又は延期により入館者数、イベントの参加者数ともに減少している。

今後の取組方針

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
 - ・引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に対応した手法も取り入れながら、市民が参加したくなるような内容の事業を企画・立案するとともに、芸術文化専用のホームページなどを活用し、効果的な広報周知を図る。
 - ・未就学児を含む子どもを対象にした演劇公演やコンサート、体験教室等、子どもや親子で参加できる機会の創出を積極的に行い、子どものころから芸術文化に身近に親しむことで、大人になっても芸術文化に親しむ人を増やす。
 - ・市民文化団体が新しい生活様式に対応した活動ができるよう、補助制度の創設や施設のガイドライン等をわかりやすく周知し、市民の芸術文化活動の再開を支援する。
- ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出
 - ・「マダムバタフライフェスティバル」については、各団体と連携し、内容や広報周知についても工夫を加え、事業の充実を図る。また、引き続き、プッチーニの生誕地であるイタリア・ルッカ市との交流を深め、ゲストを招いてコンサートを実施するほか、子どもや親子を対象にした音楽劇を実施するなど、幅広い市民が楽しめる場として充実させる。
 - ・コロナ禍においても事業を継続して次年度の取組みにつなげることができるよう、これまで実施してきたオンラインを活用した動画配信などのノウハウを活かし、実施方法を工夫しながら事業を展開するとともに新たな参加者を取り込む。
 - ・国民文化祭が令和7年度に本県で開催されることから、国民文化祭の開催に向けて、市民文化団体等と協力しながら準備を進め、国民文化祭後も活性化した状態が続くよう取り組んでいく。
- ③市の文化施設の管理運営
 - ・引き続き、指定管理者と連携して新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、老朽化した設備等の更新を行うことで、安全安心に利用してもらう。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
 - ・令和5年3月に遠藤周作生誕100年を迎えることから、この貴重な機会を活かして様々な記念事業を実施し、また企画展示の大幅なりニューアルを行うことで、文学館の魅力を市内外に発信し、入館者の増加を図る。
- ⑤新たな文化施設の整備
 - ・令和4年度に建設予定地である現市庁舎本館敷地の測量及び土質調査を行うとともに、基本計画策定完了後、管理運営計画の策定等に着手し、引き続き整備に向けた検討を進める。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値(時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
文化施設の利用者数	519,302人 (27年度見込)	↑ 目標値	520,000	520,000	520,000	520,000	520,000	520,000
		実績値	522,843	531,651	494,433	459,282	96,246	180,631
		達成率	100.5%	102.2%	95.1%	88.3%	18.5%	34.7%
自主文化事業の参加・入場者数	5,989人 (26年度)	↑ 目標値	6,389	6,589	8,489	6,989	7,189	7,189
		実績値	6,111	5,557	8,495	3,936	3,119	3,165
		達成率	95.6%	84.3%	100.1%	56.3%	43.4%	44.0%
遠藤周作文学館の入館者数	15,200人 (26年度)	↑ 目標値	21,600	21,600	21,600	21,600	21,600	21,600
		実績値	20,442	24,335	25,323	19,570	7,145	7,169
		達成率	94.6%	112.7%	117.2%	90.6%	33.1%	33.2%

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:G4-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 音楽の魅力発信事業費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市民生活に音楽芸術を広く浸透させるとともに、次世代の文化活動を担う人材の育成を図る。</p> <p>(事業概要) 中央及び地元で活躍する演奏家を、学校・保育園・公民館・病院等へ派遣して行うアウトリーチコンサートや、アウトリーチコンサートに出演した演奏家が一堂に会するコンサート等を開催することにより、市民が身近な場所で気軽に音楽を楽しめる機会を創出する。また、地元演奏家が活動できる場を設け、演奏家のスキルアップを図る。</p>	成果指標	参加者数
		目標値	1,500 人
		実績値	1,192 人
		達成率	79.5 %
		決算(見込)額	2,925,084 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績等により、アウトリーチコンサート400人(8回×50人)、ラウンジコンサート1,100人(出演200人、入場者900人)を想定した。</p> <p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 開催状況:市内各所 計8回 ・ラウンジコンサート 開催数:年9回 会場:ブリックホール <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数 1,192人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 入場者数:434人 ・ラウンジコンサート 入場者数:574人、出演者数:184人 <p>アウトリーチコンサートについては、コロナ禍ではあったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で学校や出演者等の協力のもと、予定していた回数全てを実施することができ、アンケート結果では好評であった。</p> <p>ラウンジコンサートについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、9回のうち4回を延期したが、出演者等の協力のもと、予定していた回数すべてを実施することができた。また、コロナ禍での対応として、外出することなく自宅等で鑑賞できるようコンサートの動画をホームページに掲載した。</p> <p>今後も、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、市民が音楽に身近に触れられる機会の創出に努める。</p>
取組実績、成果・課題等			

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:G4-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
2	<p>(事業名) 長崎アートプロジェクト事業費</p>	成果指標	参加者数
	<p>【担当課名】 文化振興課</p>	目標値	50 人
		実績値	38 人
		達成率	76.0 %
	<p>(事業目的) 市民がアーティストとその作品及び制作過程に直接触れる機会を創出し、市民に芸術文化を身近なものとし、興味関心を高める。</p>	決算(見込)額	789,627 円
	<p>(事業概要) プロのアーティストが市内に一定期間滞在し、滞在期間中にワークショップや作品制作及び展覧会等を開催し、市民との芸術的な交流を実施する。 令和3年度は、市民やアートサポーターを中心に、アートプロジェクトを支える人材を育成する研修を実施する。</p>	<p>成果指標及び目標値の説明</p>	<p>市民やアートサポーターを中心に、人材育成を行うための研修を実施し、その研修の参加者人数を成果指標とした。 研修1回10人×5回=50人</p> <p>(取組実績) ・長崎アートプロジェクト「じかんのちそう」展覧会 市民とアーティストが令和2年度に作成した作品等を展示する展覧会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。 期間:令和3年4月24日～5月9日 会場:旧樺島小学校 ・アート研修 開催日:令和4年3月27日 会場:ブリックホール</p> <p>(成果・課題等) ・アート研修 受講者数 38人</p> <p>長崎アートプロジェクト展覧会は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度の開催を延期して、令和3年度に開催することとし準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 また、アート研修を開催し、絵画の歴史や鑑賞ポイントなどを学ぶことにより、美術史の理解を深めるとともにアートへの興味関心を高める機会を提供した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、県外からプロのアーティストを招いて交流しながら事業展開を行うことが難しかったことから、今後は、市内で活躍しているアーティストの協力を得ながら、市民が身近な場所でアートの魅力や楽しさに触れることができ、また、自主的にアート作品の制作や展示等を行う市民や文化団体等を増やしていく事業展開となるよう、その手法等について検討する必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により事業が令和2年度内に完了しなかったため、1,094,000円を令和3年度に繰り越した。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	<p>(事業名) Nagasakiまちなか文化祭開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場を創出するとともに、市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を提供し、「まちなか」の賑わいにもつなげる。</p> <p>(事業概要) 「Nagasakiまちなか文化祭」と称し、出演者を公募し、書類審査に加え楽曲・映像審査などによる選考後、音楽・舞踊・演劇の各ジャンルの市民ステージ及び市内で活動している美術家の作品展示を行う。</p>	成果指標	参加者数
		目標値	1,510 人
		実績値	0 人
		達成率	0.0 %
		決算(見込)額	1,207,690 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績等により、来場者見込み1,400人(400人(音楽)+400人(舞踊)+600人(演劇))、出場者見込み110人(音楽50人+舞踊50人+演劇10人)を想定した。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなか劇場(演劇) 無観客でライブ配信を行うとともに、編集した動画をYouTubeで配信した。 ライブ配信:令和4年3月29日 音楽・舞踊の市民ステージ及びまちなか美術館については、新型コロナウイルスの影響により中止した。 <p>(成果・課題等)</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、まちなかで開催を予定していた音楽、舞踊等のステージ及び美術作品展示は中止した。</p> <p>まちなか劇場については、オンラインを活用し、無観客でライブ配信及び編集動画のYouTube配信を行った。</p> <p>今後も、コロナ禍でも実施できる手法も取り入れながら、市民が芸術文化の発表や鑑賞ができる機会を創出できるよう、引き続き工夫に努める。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
4	<p>(事業名) 遠藤周作文学館運営費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 長崎市ゆかりの文学者遠藤周作氏の遺品、作品その他資料の閲覧と併せ、遠藤文学の文学講座等を実施し、遠藤文学に関する情報発信と市民文化の振興を図る。</p> <p>(事業概要) 遠藤文学に関する文学講座等を実施する</p>	成果指標	文学講座等の参加者数
		目標値	1,125 人
		実績値	556 人
		達成率	49.4 %
		決算(見込)額	875,270 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>遠藤文学への関心を高め、市民文化の向上につなげることを目指しているため、文学講座等の参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績及び会場の定員により、1,125人(文学講座90人(3回)、レコード鑑賞会20人、遠藤周作を偲ぶ一日350人、映画鑑賞会650人(2回)、文学さるく15人)を想定した</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 映画上映会 336人(1回) 文学講座 67人(2回) レコード鑑賞会 37人(1回) 遠藤周作を偲ぶ一日 116人 文学さるく(中止)</p> <p>(成果・課題等) 文学講座等の参加者数 556人 文学館入館者数 7,169人</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で休館となる月もあったが、9月から遠藤周作の没後25周年を記念した企画展として展示内容をリニューアルし、また、遠藤周作氏の未発表戯曲の3作品の発見に伴い、草稿を公開したことで話題を集めたことなどにより、入館者数は前年度並みとなった。</p> <p>文学講座等については、特に下半期に感染拡大防止のためイベントを中止したことにより、目標値に至らなかった。</p> <p>令和4年度は、遠藤周作の生誕100年の記念すべき年を迎えることから、この貴重な機会を活かして、特別企画展の開催や講演会などを実施し、また生誕100周年事業の全国的な広報を行うことにより、入館者の増加を図る。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
5	<p>(事業名) マダムバタフライフェスティバル開催費負担金</p> <p>【担当課名】 文化振興課</p> <p>(事業目的) 演奏家や主催団体の連携により、多くの市民が音楽を楽しむ機会を創出し、芸術文化への興味関心を高めるとともに、文化団体等のネットワーク構築を図る。</p> <p>(事業概要) 長崎市、市内文化団体、大学等で構成する実行委員会により、子どもから高齢者まで楽しめる長崎が舞台のオペラ「マダムバタフライ」を軸としたコンサートを開催する。</p>	成果指標	入場者数
		目標値	1,500 人
		実績値	0 人
		達成率	0.0 %
		決算(見込)額	1,946,167 円
		<p>成果指標及び目標値の説明</p> <p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。 目標値は、令和2年度から継続し、マダムバタフライコンサート入場者を1,500人とした。</p> <p>(取組実績) マダム・バタフライコンサートは新型コロナウイルスの影響により中止したが、令和4年度に向けて動画を制作しYouTubeで配信した。</p> <p>(成果・課題等) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コンサートは中止し、オペラの仕組みや楽しみ方についてコンサートに出演者予定だった演奏者の演奏も交え、子どもも楽しめる解説動画を制作し、誰でも無料で視聴できるようにしたことで、自宅等で鑑賞できる機会を創出した。 今後も、コロナ禍以前のように生でコンサートを鑑賞したり楽器に触れる体験型プログラムを企画するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響によりコンサート等を中止することとなった際は、オンラインでの事業展開に変更して実施するなど、これまで蓄積してきたノウハウを活かしながら事業を実施する。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
6	<p>(事業名) 長崎文化時間の創出事業費</p> <p>【担当課名】 文化振興課</p> <p>(事業目的) コロナ禍の中、市民文化団体や市民演奏家等が出演する機会を設けることで、市民文化団体や市民演奏家等の活動再開を応援するとともに、市民が芸術文化に触れる機会をつくり、心豊かな生活を取り戻すきっかけをつくる。</p> <p>(事業概要) 「三密」を避けるなど、国が示す「新しい生活様式」にあった方法で、音楽コンサート、演劇公演、市民参加型の体験等を行う。</p>	成果指標	参加者数
		目標値	2,000 人
		実績値	722 人
		達成率	36.1 %
		決算(見込)額	12,711,266 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、市の施設を利用した屋外コンサートや親子向け演劇公演等の参加予定者を2,000人とした。</p> <p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども向け演劇体験 開催日:令和3年7月10日(1回) 会場:ブリックホール ブリックホール探検&演劇体験ツアー 開催日:令和3年7月31日(2回) 会場:ブリックホール ダンスワークショップ 開催日:令和3年8月5日(2回) 会場:ブリックホール 子ども向け伝統文化体験 (日本舞踊) 開催日:令和3年7月23日、24日、30日、31日(4日間) (いけばな) 開催日:令和3年8月4日(1回) (箏(こと)) 開催日:令和3年9月25日、26日、10月2日、3日、16日、17日(6日間) ※会場はすべてブリックホール プッチーニおじさんのアウトリーチコンサート 開催日:令和3年11月10日、22日、12月15日(4回) 会場:市内の幼稚園・保育園 アウトリーチコンサート 開催日:令和3年12月4日、5日(2回) 会場:茂木地区ふれあいセンター、銭座地区ふれあいセンター 朗読劇公演 開催日:令和3年4月17日、6月5日、12月4日、令和4年1月10日、2月13日、3月14日(9回) 会場:南山手地区町並み保存センターほか5箇所 「じかんのちそう」オンライン展覧会(1回) 市民が作成した作品やアーティストのコメント等をとりまとめた動画をYouTubeで配信 親子向け演劇デジタルシアター(1回) 演劇公演の動画をYouTubeで配信 <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数、入場者数合計 722人</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども向け演劇体験 参加者数:15人 ブリックホール探検&演劇体験ツアー 参加者数:50人 ダンスワークショップ 参加者数:40人 子ども向け伝統文化体験 参加者数:延110人 プッチーニおじさんのアウトリーチコンサート 入場者数:232人 アウトリーチコンサート 入場者数:161人 朗読劇公演 入場者数:114人 <p>「新しい生活様式」を取り入れた方法で、新型コロナウイルス感染症に対応した事業を実施し、コロナ禍の影響で機会が減少していた市内の劇団や市民演奏家等の出演、市民の鑑賞や体験の機会を提供するとともに、新しい生活様式での芸術文化活動のノウハウ等の共有ができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により事業が令和2年度内に完了しなかったため、15,626,000円を令和3年度に繰り越した。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
7	<p>(事業名) 広報宣伝費</p> <p>【担当課名】 文化振興課</p> <p>(事業目的) 自主文化事業の広報・周知を図る。</p> <p>(事業概要) 自主文化事業の広報・周知を図るため、情報誌やチラシを作成し、広く市民に配布する。</p>	成果指標	配布部数
		目標値	106,000 部
		実績値	78,600 部
		達成率	74.2 %
		決算(見込)額	2,559,700 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>自主文化事業を広く市民に周知することを目標としており、広報・周知に有効である情報誌とチラシの配布部数を成果指標とした。</p> <p>目標値は過去の実績等から、情報誌11,000部×6回、チラシ40,000部(演劇20,000部、体験ワークショップ20,000部)とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ながさき情報倶楽部(6回発行) イベント周知用チラシ、ポスター等(6件)</p> <p>(成果・課題等) ながさき情報倶楽部(60,000部) イベント周知用チラシ、ポスター等(18,600部)</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により、イベント開催時期の確定が難しい中で、必要な情報を市民に届けることができた。 今後も、工夫しながら、適切な時期に適切な情報の周知を行っていく。 新型コロナウイルス感染症の影響により事業が令和2年度内に完了しなかったため、715,000円を令和3年度に繰り越した。</p>		

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-2	市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象		意 図	
	市民が		自主的な芸術文化活動を活発に行っている。	
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子	

令和3年度の取組概要

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開
- ・市民参加舞台の公演については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら稽古を行い、公演を実施した。(2回、出演者数42人、入場者数1,026人)
 - ・市内の小中学校で、地元演劇人による演劇アウトリーチを実施した。(8回)
 - ・新たな生活様式を取り入れた「長崎文化時間の創出事業」の中で、芸術文化を体験できる機会を設けるため、新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、ダンスワークショップ(2回)や子ども向け演劇体験(1日)、子ども向け伝統文化体験(日本舞踊4日間、箏6日間、いけばな1回)を開催した。
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み
- ・市民文化団体の自主的な活動を支援する芸術文化活動助成金については、オンライン開催なども助成対象としたが、新型コロナウイルス感染症の影響で約半数が中止となった。(採択14件、中止6件)
 - ・部活動以外の芸術文化大会に出場する小中学生及び高校生に対して助成する芸術文化振興奨励金を創設した。(交付件数28件)
- ③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出
- ・市民美術展(前期11月18日～11月26日、後期11月28日～12月5日)、市民いけばな展(3月11日～3月13日)、市民三曲演奏会(10月31日)を実施したが、市民演劇祭及び市民音楽祭については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。
- ④文化事業を支援する人材育成の取組み
- ・ブリックホールサポーターなど市民の参画を得て事業に取り組んだ。

評価(成果)

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開
- ・市民参加舞台の公演については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため集合して稽古ができない期間は、レッスン動画を作成し、自宅で動画を見ながら稽古ができるように工夫しながら稽古を行い、公演には1,026人が入場し、多くの市民に芸術文化に触れ楽しむ機会を提供するとともに、「新しい生活様式」での芸術文化活動について、出演者、指導者、スタッフとのノウハウの共有や市民への定着が一定図られた。
 - また、演出、演出助手、振付、歌唱指導に地元長崎を拠点に活動している方を起用することで、舞台芸術に関わる人材の育成につなげることができた。
 - ・「新しい生活様式」での芸術文化活動について、出演者、指導者、スタッフとのノウハウの共有や市民への定着が一定図られた。
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み
- ・市民文化団体に対する助成金については、新型コロナウイルス感染症の影響で、入場者数を制限することでチケット収入が減少するなどイベント開催が困難な中、活動を支援することができた。(7団体、1,474千円)
 - ・芸術文化振興奨励金を創設したことにより、子どもたちの芸術文化の振興と活動の活性化につなげることができた。(28人、358千円)
- ③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出
- 市民文化団体と協力して、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で事業を実施することで、市民文化団体が芸術文化活動を継続するとともに、その成果を発表することができた。また、市民が芸術文化を鑑賞する機会を創出することができた。中止した事業についても、コロナ禍で活動する際の対応策等について情報を共有することができた。
- ・市民美術展の実施(16日間、8,568人)
 - ・市民いけばな展の実施(3日間、924人)
 - ・市民三曲演奏会の実施(1日、343人)
- ※三曲＝箏(こと)、三弦(三味線)、尺八

評価(問題点とその要因)

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術文化体験教室を中止したため、芸術文化に触れる機会が減少した。
 - ・事業の内容や魅力が十分に伝わっていないためか、子どもを対象にした体験やワークショップにおいては、内容によって申込者数に偏りがある。
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み
- ・市民文化団体が独自で情報発信する手法を持っておらず、メンバー募集やイベント、活動内容を広く周知することができないため、市民文化団体の団体数や所属者数が減少しており、メンバーの高齢化も進んでいる。
 - ・芸術文化振興奨励金について、新型コロナウイルス感染症の影響により、大会が中止になったケースがあったと思われ、交付実績が見込みを大幅に下回った。
- ④文化事業を支援する人材育成の取組み
- ・ブリックホールサポーターの活動メンバーが固定化しており、活動内容も広がっていない。

今後の取組方針

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開
- ・芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」や、SNSを含めた様々な媒体を活用して、参加者募集等を広く周知するとともに、実施した事業の動画等を掲載することで、事業の内容を理解してもらい、参加しやすくする。
 - ・子どもの頃から芸術文化に触れることで、大人になっても芸術文化活動を行う市民を増やすため、子どもや親子向けの事業を充実するとともに、参加者が少ない若者向けの事業を企画することで、芸術文化活動を再開したり、新たに始める人を増やす。
 - ・演劇アウトリーチでは、芸術文化体験ができるだけでなく、コミュニケーション能力を育み、自己表現を豊かにし、他者理解が深まるなどの効果があることも周知するなど、事業の内容だけでなく、効果も伝えるなどアプローチを工夫することで、新たに取組む学校や市民を増やす。
 - ・これまで特に参加が少ない20～30代の若者世代を対象とした事業について、若者世代が参加しやすい時間帯で企画し、スマホ等で気軽に情報を入手したり、申し込みができるよう、芸術文化専用ホームページも活用して周知を行い、若者世代の参加者を増やす。
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み
- ・芸術文化活動助成事業については、多くの芸術文化活動を支援できるよう、制度をわかりやすく周知し、活用の促進を図る。
 - ・芸術文化専用ホームページには、市民文化団体が自ら情報発信できる掲示板機能があることから、イベントの周知やメンバー募集などに活用してもらい、各団体の活動の活性化につなげる。
 - ・新たに創設した芸術文化大会等への出場に対する奨励金の交付により、子どもたちの芸術文化活動を奨励することで、大人になっても芸術文化活動を続ける市民を増やす。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響からの芸術文化活動の再開を支援し、新型コロナ感染拡大防止対策を講じながら芸術文化活動を行う市民文化団体等が活躍できる場を創出する。
- ④文化事業を支援する人材育成の取組み
- ・ブリックホールサポーターの登録推進のためにイベント開催時に登録制度をPRするなど広報周知を強化するとともに、芸術文化専用ホームページで活動状況を伝えるなど、活動の周知を充実させ登録者の増加を図る。
 - ・インターンシップや大学と連携したボランティアの受入れなど、若者が様々な事業に参画する機会を創出することで、芸術文化活動への興味関心を高め、自主的な文化活動の活性化を図る。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
ブリックホールサポーター登録者数	74人 (26年度)	↑ 目標値	90	90	90	90	90	90
		実績値	76	91	68	69	63	87
		達成率	84.4%	101.1%	75.6%	76.7%	70.0%	96.7%
市民文化団体の登録数	282団体 (26年度)	↑ 目標値	287	273	292	277	296	296
		実績値	273	266	271	236	245	225
		達成率	95.1%	97.4%	92.8%	85.2%	82.8%	76.0%
市民文化団体の所属者数	33,224人 (26年度)	↑ 目標値	33,579	31,941	34,164	32,409	34,632	34,632
		実績値	26,786	23,803	24,084	20,803	21,122	18,003
		達成率	79.8%	74.5%	70.5%	64.2%	61.0%	52.0%

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 市民参加型舞台公演等開催費</p>	成果指標	参加者数
	【文化振興課】	目標値	2,870 人
		実績値	1,288 人
	(事業目的)	達成率	44.9 %
	<p>長崎では鑑賞する機会が少なかった、著名な劇作家・演出家が手掛ける質の高い小劇場から中劇場向けの舞台芸術作品を招聘し、新たな観客の獲得につなげるとともに、舞台芸術に係る人材育成と活動の活性化を図る。</p>	決算(見込)額	12,939,647 円
	<p>(事業概要) 公募で集まった市民と一緒に平成30年度、令和元年度に制作した戯曲や音楽をもとに舞台作品を作り、公演する。 また、様々なワークショップを開催する。</p> <p>令和3年度は平成30年度から取り組み、令和2年度に新型コロナウイルス感染防止のため開催を延期した市民参加舞台「ながさきのたね」の集大成として、出演者オーディション、稽古を経て公演を行う。</p>	<p>成果指標及び目標値の説明</p> <p>市民が演劇に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 目標値は、市民参加舞台2,570人(出演者70人、観客2,500人(1,250人×2公演))、演劇アウトリーチ300人(20人×15回)を想定した。</p> <p>(取組実績) ・市民参加舞台「ながさきのたね」 開催日：12月25日、12月26日 会場：ブリックホール ・演劇アウトリーチ 回数：8回(小学校7回、中学校1回)※小学校2回中止</p> <p>(成果・課題等) ・参加者数：1,288人</p> <p>【内訳】 ・市民参加舞台 出演者：42人 入場者：1,026人(2日間) ・演劇アウトリーチ 参加者：220人(8回)</p> <p>市民参加舞台の公演については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、稽古をオンラインに変更する等の対応をしながら、延べ60回以上の稽古を経て、公演を実施することができた。 また、演出、演出助手、振付、歌唱指導に地元長崎を拠点に活動している方を起用することで、舞台芸術に関わる人材の育成につなげることができた。 「新しい生活様式」での芸術文化活動について、出演者、指導者、スタッフとのノウハウの共有や市民への定着が一定図られた。 演劇アウトリーチについては、予定していた10回のうち、新型コロナウイルス感染症の影響で2回中止したが、実施できた8回については、感染症対策として講師と児童が接触しない内容に変更し、コロナ禍にあっても子どもたちが演劇に触れる機会を提供することができた。 今後も新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、継続して市民が舞台芸術に関わる機会を提供していく。</p>	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
2	<p>(事業名) 芸術文化活動助成事業費 【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市内の文化団体への助成を行うことにより、自主的な芸術文化活動を支援し、芸術文化の向上及びコミュニティの醸成を図る。</p> <p>(事業概要) 文化団体の自主的な芸術文化活動及び合併地区における文化の振興並びにコミュニティの醸成に寄与する文化事業に対し、30万円を限度として助成金を交付する。</p>	成果指標	助成件数
		目標値	10 件
		実績値	7 件
		達成率	70.0 %
		決算(見込)額	1,554,200 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>限られた予算の中で、文化団体への助成を行うことで市民の芸術文化活動を支援することを目指しているため、助成金予算総額を一件あたりの助成上限額300千円で除した件数を成果指標とした。</p> <p>3,000千円÷300千円=10件</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 市内文化団体の芸術文化活動に助成を行った。</p> <p>(成果・課題等) 交付額:1,474千円 交付内定件数:14件(うち合併地区0件) 交付申請件数:7件(うち合併地区0件)</p> <p>新型コロナウイルスの影響により活動が制限されている文化団体を支援するため、動画配信やWEB上での作品発表などのオンライン開催も対象とした。 結果、14件の事業が採択されたが、そのうち6件は新型コロナ感染拡大防止のため事業が中止となった。 今後もコロナ禍に対応したオンラインなどの開催方法を含め、市民文化団体の活動が継続できるよう支援する。</p>		
3	<p>(事業名) 芸術文化体験教室開催費 【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 若者が気軽に様々な芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高めながら、若者が楽しめるまちづくりに寄与する。</p> <p>(事業概要) 20~30代の若者を対象に、様々なジャンルの芸術文化に、楽しみながら触れる機会を創出し、裾野の拡大を図る。</p>	成果指標	参加者数
		目標値	30 人
		実績値	0 人
		達成率	0.0 %
		決算(見込)額	0 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 目標値は、講座の定員数(30人)とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) なし</p> <p>(成果・課題等) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。 今後は、これまでに蓄積した「新しい生活様式」を取り入れた手法で新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ったうえで事業を実施する。</p>		

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G4-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
4	<p>(事業名) 芸術文化大会等出場奨励事業費</p> <p>【担当課名】 文化振興課</p> <p>(事業目的) 芸術文化大会に出場する小中学生及び高校生に対して助成することで、芸術文化の振興と活動の活性化につなげ、将来芸術文化活動を続ける市民を増やす。</p> <p>(事業概要) 小中学生及び高校生が、部活動以外で芸術文化分野の全国大会等に出場する場合、奨励金を交付する。</p>	成果指標	交付人数
		目標値	1,110 人
		実績値	28 人
		達成率	2.5 %
		決算(見込)額	358,000 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>交付人数が多いほど、小中学生及び高校生の芸術文化活動が活性化していることになるため、奨励金の交付人数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、県・九州・全国・国際大会に出場する人数(県700人+九州300人+全国100人+国際10人)の合計人数とした。</p>
5	<p>(事業名) 市民文化団体共催費負担金</p> <p>【担当課名】 文化振興課</p> <p>(事業目的) 市民の芸術文化活動の成果を発表する場を創出し、市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図るとともに、市民が芸術文化を鑑賞する機会を提供する。</p> <p>(事業概要) 市民文化団体と共催し、市民美術展、市民いけばな展、市民演劇祭、市民三曲演奏会及び市民音楽祭を開催する。 ※三曲＝箏(こと)、三弦(三味線)、尺八</p>	成果指標	参加者数
		目標値	12,300 人
		実績値	10,872 人
		達成率	88.4 %
		決算(見込)額	1,869,590 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出と、市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ることを目的としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値はコロナ禍前の直近H30年度実績から12,300人とした。(H30年度実績12,298人【内訳】市民美術展8,302人、市民いけばな展1,204人、市民演劇祭860人、市民三曲演奏会420人、市民音楽祭1,512人)</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 市民美術展(前期11月18日～11月26日、後期11月28日～12月5日) 市民いけばな展(3月11日～3月13日) 市民三曲演奏会(10月31日) 市民演劇祭(中止) 市民音楽祭(中止)</p> <p>(成果・課題等) 市民美術展(16日間、8,568人) 市民いけばな展(3日間、924人) 市民三曲演奏会(1日、343人)</p> <p>市民文化団体と協力して、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で事業を実施することで、市民文化団体が芸術文化活動を継続し、その成果を発表することができた。また、市民が芸術文化を鑑賞する機会を創出することができた。 中止した事業についても、コロナ禍で活動する際の対応策等について情報を共有することができた。</p>		